

■ 原因（病原体）

- 豚熱ウイルス（classical swine fever virus）
- 罹患した豚や野生イノシシ（死体含む）との接触等により感染。

■ 宿主

- 豚、イノシシ ※人には感染しない

■ 分布

- 欧州、アジア、アフリカ、中南米の一部の国々で発生。
- 我が国では平成30年9月に26年ぶりに発生。

飼養豚では24都県、野生イノシシでは40都府県で発生（令和7年6月末時点）。

■ 症状

- 急性、亜急性、慢性型など多様な病態を示す。白血球の減少が見られる。

※有効なワクチンが存在



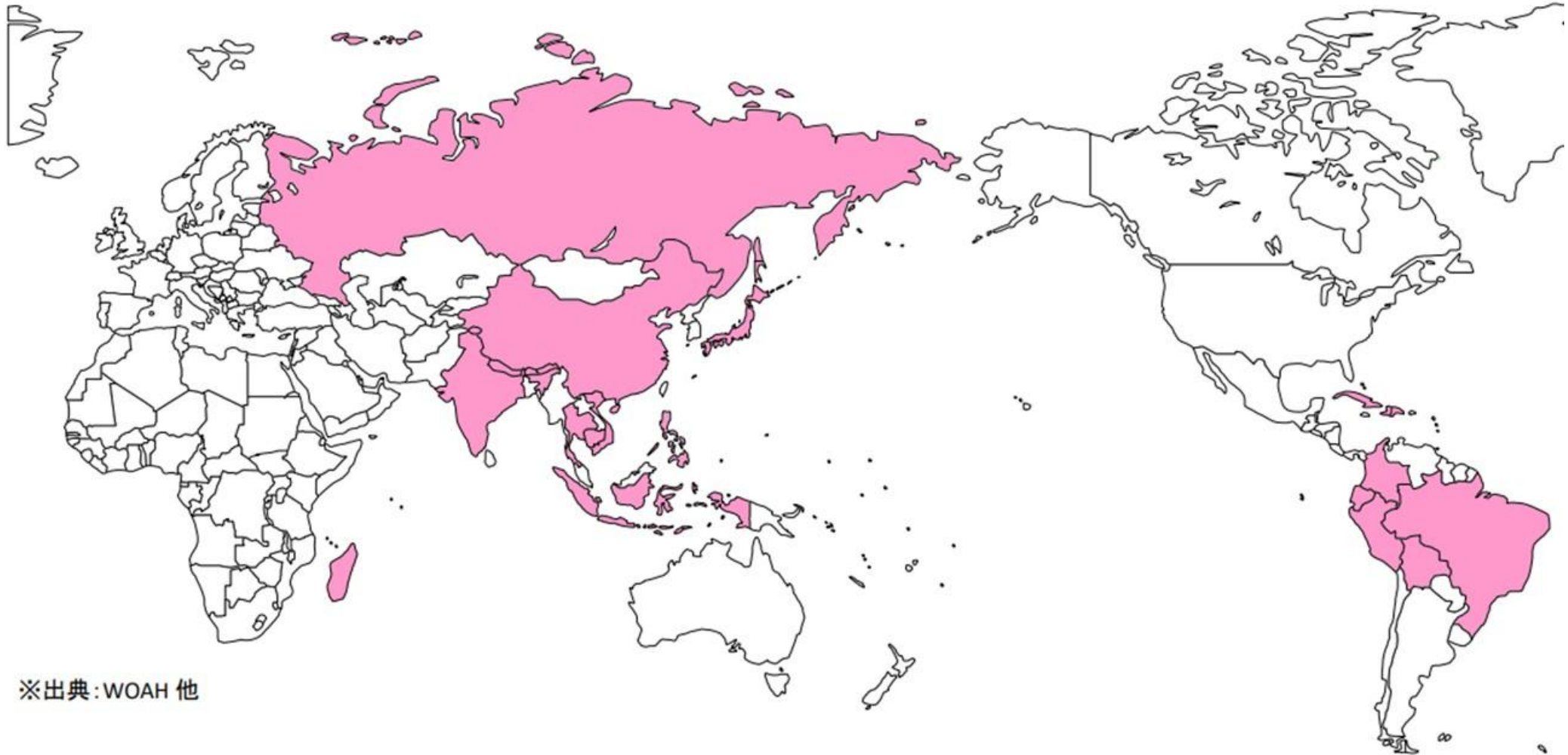
【皮膚紫斑（しはん）】

（出典：動物衛生研究部門）

CSFの発生報告状況

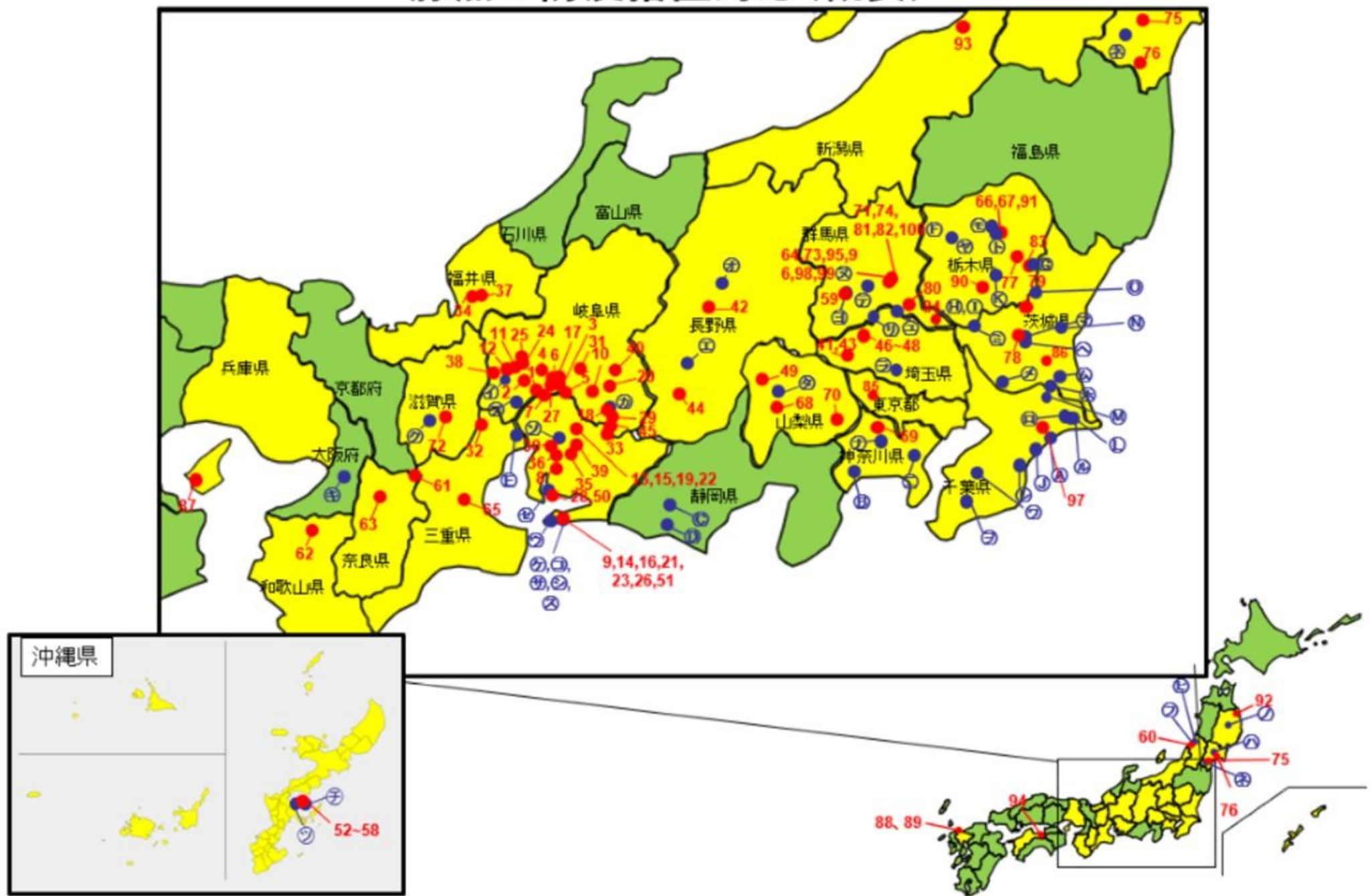
2025年6月17日現在

 =CSFの発生報告がある国(2018年1月から現在までに、WOAHに発生報告があった国)



※出典:WOAH 他

豚熱の防疫措置対応(概要)



飼養豚・野生イノシシ発生県、予防的ワクチン接種推奨地域

豚熱

○ 予防的ワクチン接種の対象地域は、防疫指針に基づき、以下を考慮し、牛豚等疾病小委員会で議論し設定。

- ① 野生イノシシにおける豚熱感染状況
- ② 農場周辺の環境要因（野生いのししの生息状況、周辺農場数、豚等の飼育密度、山、河川の有無等の地理的状況）
- ③ 疫学的リスク低減のため、まだら打ちを避ける（面的に接種し順に拡大）

飼養豚陽性発生県：赤色（ただし、斜線////は、令和4年度以降発生なし。）

【24都県】（飼養頭数 4,037,930頭（全国の45.9%））

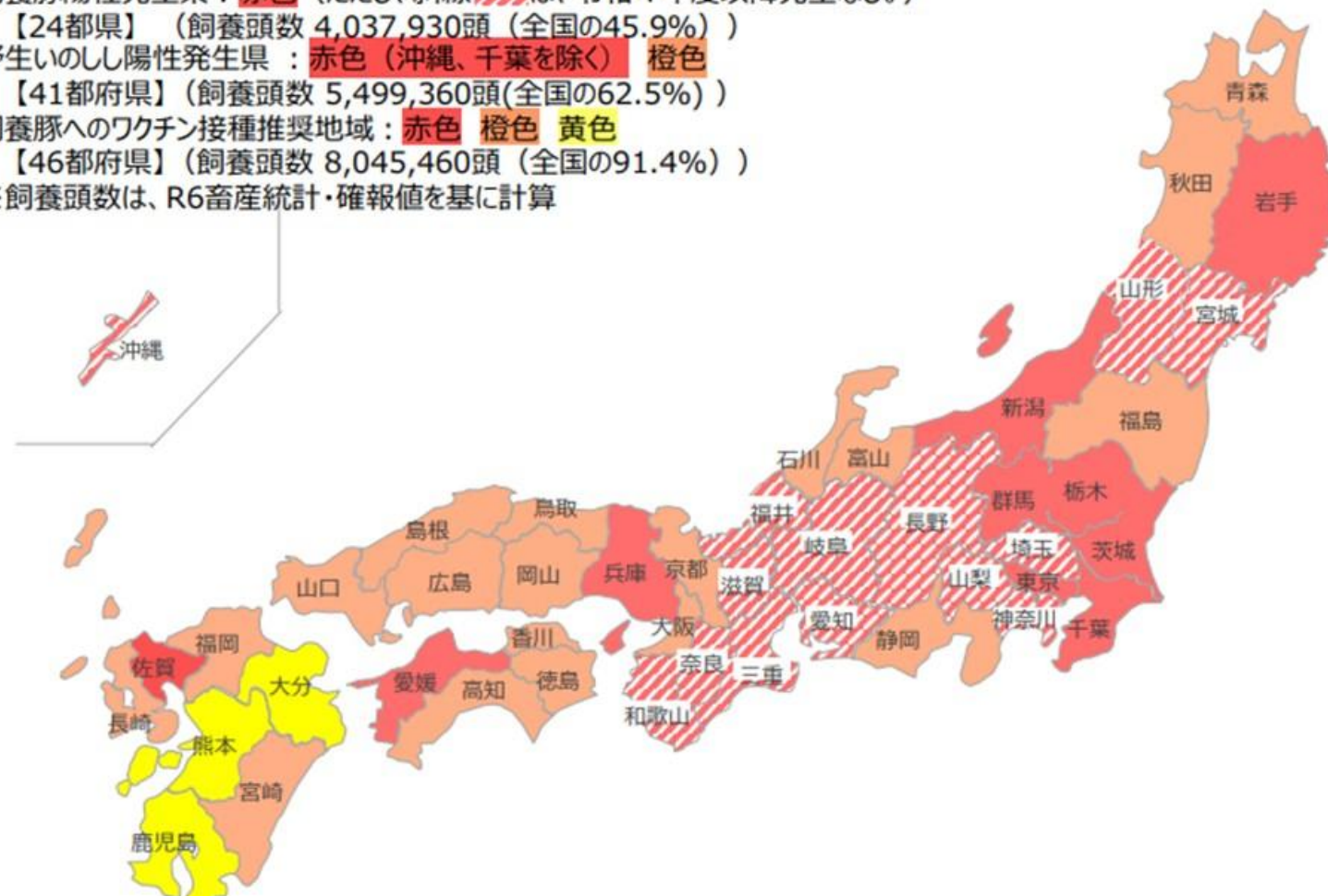
野生いのしし陽性発生県：赤色（沖縄、千葉を除く） 橙色

【41都府県】（飼養頭数 5,499,360頭（全国の62.5%））

飼養豚へのワクチン接種推奨地域：赤色 橙色 黄色

【46都府県】（飼養頭数 8,045,460頭（全国の91.4%））

※飼養頭数は、R6畜産統計・確報値を基に計算



- 豚熱の発生を予防するためには、適時適切なワクチン接種に加え、**飼養衛生管理の徹底**が最も重要。
- 飼養豚が野生動物と接することがないように、**野生動物侵入対策**を講ずるとともに、農場内や車両の**消毒**や飼養衛生管理区域での**更衣・履替え**等の徹底が、農場へのウイルスの持込みを防止するために重要。

1 野生動物対策

- 農場を囲う柵や壁を設置するとともに、**破損等がないか定期的に点検**。
- 農場辺縁を含め敷地内の**草刈り**や**枝の剪定**を行い、野生動物が隠れる場所を作らない。
- **死亡家畜**は野生動物を誘引しないよう**適切に保管**。



2 農場内や侵入車両の消毒

- 畜舎周囲・農場外縁部に定期的に**石灰を散布**。
- **車両の洗浄・消毒**も忘れない。車体、タイヤ周りや溝の汚れをしっかりと落とす。



3 更衣・履替えの徹底

- **洗浄・消毒された衛生的な衣服**や**長靴**を用意。
- **長靴は履替えを徹底し**、使用後は**洗浄してから消毒**。
- **消毒薬**は定期的、または汚れた都度**交換**。



豚熱清浄化ロードマップの基本的な考え方

豚熱

- ロードマップの最終的な目標は「我が国からの豚熱ウイルスの撲滅」及び「全国での飼養豚へのワクチン接種の中止」。
- その過程で、**当面の目標**として「飼養豚での清浄性について、**WOAHの豚熱清浄化ステータス取得**」を目指す。

目標：飼養豚へのワクチン接種中止

赤字：WOAH清浄国ステータス取得要件

清浄化

経口ワクチン散布
捕獲によるウイルス低減・拡散防止
サーベイランス

野生いのしし

【基本方針】

- ① 野生いのしし群の清浄化のための対策は引き続き推進するものの、その進捗に関わらず、飼養豚群での清浄化を進めていく（飼養豚での発生ゼロを目指す）
- ② 最終目標は、「全国の飼養豚へのワクチン接種中止」及び、その過程での、「飼養豚での清浄性についての清浄国ステータスの取得」
- ③ この目標の達成に向け、「地域ごと」、「フェーズごと」のアプローチを取る

○感染抗体陽性豚の
優先的更新

○飼養豚で発生がない
【12か月間】

○サーベイランスで
感染抗体陽性豚が確認
されない【12か月間】

○マーカーワクチンの適切な接種（**現行ワクチンの使用中止**）

○殺処分範囲の見直しの検討

○全頭殺処分

○飼養衛生管理の徹底（飼養豚と野生いのしし群との適切な措置による隔離等）

現行

（現行ワクチン接種豚のみ存在）

飼養豚

I 期

（現行ワクチン接種豚とマーカーワクチン接種豚が混在）

マーカーワクチン実用化

II 期

（マーカーワクチン接種豚のみ存在）

現行ワクチン接種母豚更新完了

III 期

（マーカーワクチン接種豚のみ存在）

感染抗体陽性豚の更新完了

清浄化

目標・飼養豚での清浄性について
清浄国ステータス再取得

■ 原因（病原体）

- アフリカ豚熱ウイルス（African swine fever virus）
- 罹患した豚や野生イノシシ（死体含む）との接触等により感染。

■ 宿主

- 豚、いのしし ※人には感染しない。

■ 分布

- アフリカ、欧州の一部（ロシア及びその周辺国、東欧）のほか、
平成30年8月にアジアで初めて中国で発生して以降、日本など一部を除く**アジア全域に感染拡大。**
※日本では未発生。

■ 症状

- 突然死や急性～慢性の症状、無症状等の幅広い病態を示す。
豚熱に酷似するが、**より病原性は強い傾向。※有効なワクチンや治療法はない。**
- 発生すれば**養豚業に甚大な影響。**

（※中国では、本病発生により、豚の飼養頭数が約4割減少し、豚肉価格が大幅に高騰。）



【全身の出血性病変、チアノーゼ】

（出典：Veterinary school of Barcelona,
SpainCentro de Vigilancia Sanitaria,
Veterinaria, Spain）

（参考）豚熱、アフリカ豚熱の病原性に関する比較

	伝播性	致死率
豚熱	++	+
アフリカ豚熱	+	++

伝播性：感染しやすい（ウイルスに接触した豚のうち感染する個体の割合）
致死率：感染し、発症した豚のうち、死亡した個体の割合

出典：FLI（ドイツ連邦動物衛生研究所）作成資料

- 2018年8月に中国においてアジア初の発生。その後、韓国、ベトナムを始め、**アジア全域に感染が拡大**。
- 特に**韓国**では、2019年9月の発生確認以来、飼養豚・野生イノシシともに徐々に感染が拡大し、**2023年12月には、釜山広域市の野生イノシシで感染を確認**（直近では飼養豚及び野生イノシシで2025年7月に感染確認）。
- 東アジアで**アフリカ豚熱が発生していないのは、日本と台湾のみ**。

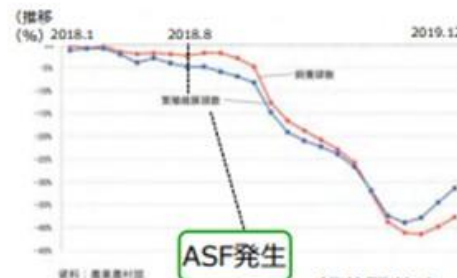
世界の発生状況

■ = 2005年以降、
WOAH等に発生・感染確認通報のあった国/地域



- 中国では、2018年の発生により、豚の飼養頭数が約4割減少し、豚肉価格が大幅に高騰。

中国の豚飼養頭数の推移



飼養頭数は
約4割減少

中国の豚肉価格の推移



韓国における感染拡大

※令和7年7月28日時点



- 2019年9月以降、**53農場**で発生。

- 2023年12月以降、**釜山広域市の野生イノシシで感染拡大**。



アフリカ豚熱ウイルスの侵入を防ぐためのお願い

侵入経路 ①

肉類に付着



肉の入った食品を
国内に持ち込まない

国内持込禁止

NO NO NO

肉の入った食品を
野外に捨てない

屋外放置禁止

NO NO

侵入経路 ②

人に付着



海外では

- 靴などについた土は落とす
- 動物がいる施設に行かない

注意

空海港では 指示に従って消毒

国内では

- 帰国後1週間、観光牧場等に行かない
- 家畜がいる施設に近づかない
- 野生イノシシや鹿・柵に近づかない

動物園 観光牧場

農林水産省

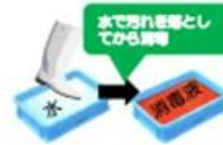
豚コレラ・アフリカ豚コレラの侵入防止対策を徹底しましょう!

昨年9月、日本において26年振りに豚コレラが発生しました。近隣国では、豚コレラ及びアフリカ豚コレラの発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いています。

衛生管理を徹底しましょう!



関係者以外の農場
への立入を禁止



農場(畜舎)に出入りする
際には、消毒を実施



飼料に生肉を含む又は含む
可能性がある場合は、
十分に加熱処理

豚コレラ

2018年9月以降
日本で発生中

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です!

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に繼ぐ下痢、呼吸障害等
異状を発見したら直ちに通報しましょう!



耳翼の腫瘍



元気がない



結膜炎

重症例は後肢麻痺・運動失調・四肢の激しい痙攣などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

アフリカ豚コレラ

2018年8月以降
中国、モンゴル、ベトナム、
カンボジアで発生

病状は多岐に渡り、甚急性では突然死亡、
急性では発熱が見られます。

異状を発見したら直ちに通報しましょう!



死亡



デアノーゼ

病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性的の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40~42℃)、皮下出血、脾臓の腫大、粘血便、チアノーゼ等を呈し、死亡率は100%に近い。

写真出典: 国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門

詳細情報はこちら(農林水産省HP)

豚コレラについて:



アフリカ豚コレラについて:



■ 原因（病原体）

- 口蹄疫ウイルス（Foot-and-mouth disease virus）
- 空気感染等

■ 対象家畜

- 牛、豚、めん羊、山羊、水牛、鹿、いのしし

■ 分布

- 中国等の近隣アジア諸国で継続的に発生。
- 日本では平成22年に宮崎県で10年ぶりに発生したが、翌平成23年には清浄国に復帰。

■ 症状

- 口や蹄に水疱形成、発熱、流涎（よだれを垂らす）等の症状を示す。
- 極めて感染力が強く、幼獣では高い致死率を示す。
- 成長した家畜の死亡率は低いですが、発病後の発育障害等により、産業動物としての価値が失われる。



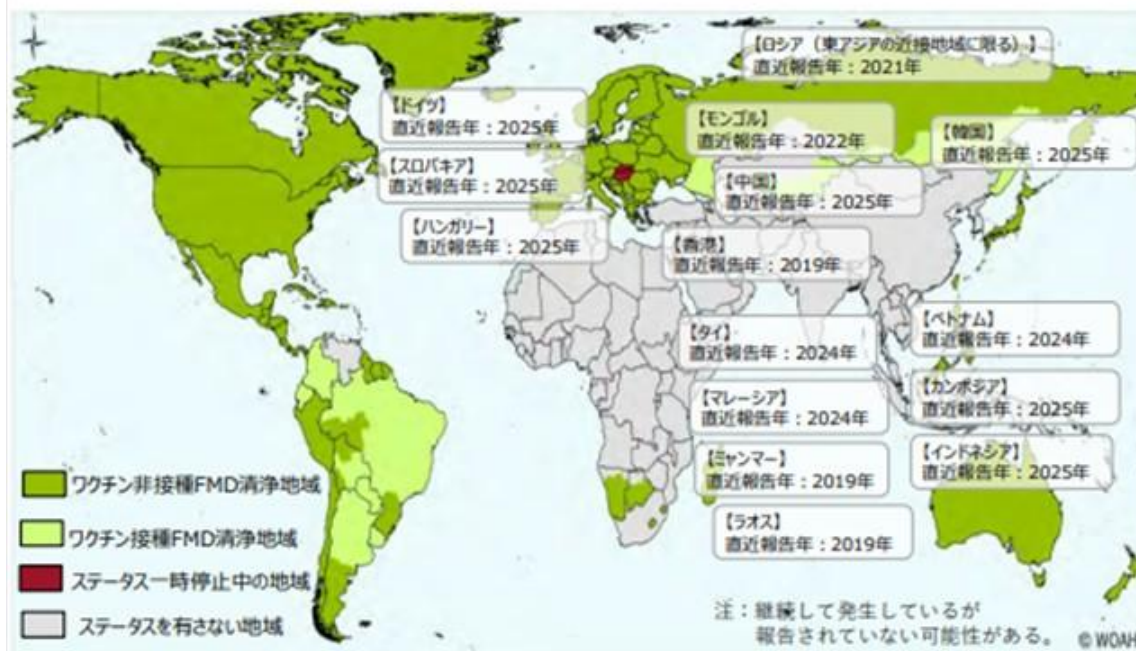
【牛における症状（流涎）】

海外での発生状況

口蹄疫

- **日本**では2010年に宮崎県で10年ぶりに発生したが、翌**2011年**には清浄国に復帰。
 - 他方、海外では**継続的に発生**。本病はどの国でも発生し得る中、**我が国への侵入リスクは極めて高い状況**。
- 欧州**では、**2025年1月**には**ドイツ**で、同年**3月**には**ハンガリー**及び**スロバキア**で発生を確認。（同年4月14日付けでドイツ全土がワクチン非接種清浄国へステータス回復。）
- 東アジア**では、**2025年3月**に**韓国**で1年10か月ぶりに発生を確認。

世界の発生報告状況



韓国の発生報告状況

※令和7年4月14日時点

発生日	場所	動物種	飼育頭数
1 '25/3/13	全南 靈岩郡	牛	184
2 '25/3/14	全南 靈岩郡	牛	15
3* '25/3/14	全南 靈岩郡	牛	471
4 '25/3/14	全南 靈岩郡	牛	31
5 '25/3/15	全南 務安郡	牛	88
6 '25/3/17	全南 靈岩郡	牛	365
7 '25/3/17	全南 靈岩郡	牛	25
8 '25/3/17	全南 靈岩郡	牛	100
9 '25/3/18	全南 靈岩郡	牛	49
10 '25/3/18	全南 靈岩郡	牛	25
11 '25/3/19	全南 靈岩郡	牛	125
12 '25/3/19	全南 靈岩郡	牛	835
13 '25/3/20	全南 靈岩郡	牛	43
14 '25/3/23	全南 靈岩郡	牛	31
15 '25/4/10	全南 務安郡	豚	5,223
16 '25/4/10	全南 務安郡	豚	1,736
17 '25/4/12	全南 務安郡	豚	1,951
18 '25/4/12	全南 務安郡	豚	1,931
19 '25/4/13	全南 務安郡	豚	3,216

*関連農場2農場（いずれも検査陽性）あり。

注：日付はWOAH報告の発生日
ただし、WOAH未報告の場合は韓国当局公表日（疑い又は確定）
とし、件数の後に※マークを記載
頭数は当該農場で飼養されている感受性動物数



狩猟で来道される方へのお願い!!

日本各地で豚熱の感染が拡大しています!!

- 豚熱に感染した野生イノシシが生息する山では、土や水辺などがウイルスで汚染している可能性があります。
- 本州で狩猟に使用した長靴や解体用ナイフ等には、豚熱ウイルスが付着している可能性があります。

北海道で豚熱の発生はありません!!
本州から道内へ豚熱を持ち込まないよう
泥落とし、洗浄の徹底をお願いします!!

イノシシが山中の土などを
ウイルスで汚染!!



狩猟で使った道具や車両も
ウイルスで汚染!!



長靴 解体用
ナイフ オレンジ
ベスト 車両
タイヤ

STOP!!豚熱!!

泥落とし!!
洗浄!!消毒!!

北海道農政部生産振興局畜産振興課

北海道へ転飼する養蜂家の方へ
お願いいたします!!



日本各地で豚熱の感染が拡大しております。

- ▶ 感染拡大の大きな要因として、豚熱に感染した野生のイノシシが山を移動することにより、ウイルスを運んでいることがわかっております。
- ▶ 豚熱ウイルスは、野生イノシシが触れた土などが、物に付着して運ばれる恐れがあります。

つきましては、北海道で豚熱の発生を防ぐ
ためにも、北海道へ転飼する際には、本州の
山中で使用した長靴や巣箱、山へ入った
車のタイヤから、泥をよく落としてください。



北海道養蜂協会／北海道農政部生産振興局畜産振興課

敬告来访北海道的中国游客

我们要求您在预防和传播

口蹄疫・非洲猪瘟

方面进行

请不要进入农场!!



请配合在每
进行的消毒



请不要带肉等!!



不要把它扔在户外!!



道民の皆様・来道された皆様へ

口蹄疫・アフリカ豚熱

の侵入防止・まん延防止に
ご協力をよろしくお願いします!

農場へは



入らない!

各施設では



消毒!

肉等は持ち込まない!



野外に捨てない!



北海道

kaido residents and visitors

cooperate with intrusion
tion and spread prevention of
and mouth disease
frican Swine Fever

do not
farms !!



Please cooperate with
the disinfection being
carried out at each
Facility !!



meat products
N is
d,
tering !!

